

戦後70年

70年前の8月15日、「玉音放送」が流  
れ、日本の敗戦という形で太平洋  
戦争が終りました。

5歳の私は、その日を生まれ育つ  
旧満州の新京(今の長春)で迎えてい  
ました。ソ連が対日参戦して2週間  
になるこの日、父は既にソ連に抑留  
されておりました。身重の母と4人のきょうだ  
いはソ連軍の戦車と銃に脅えながら  
を送り始めました。

翌年8月、無事に生まれつづき月  
になつた弟を合せて5人の子供がだ  
いと、母は日本に連れ帰りました。  
抑留の日、北へ運ぶ貨車に押しま  
れる直前、父が「皆を支え合つて  
生きなれ。父さんは必ず帰る。」と  
言った。羞いまなざしと大きな手の  
温もりを覚えたことはありませぬ。  
「生きる」とは「支え合ふこと」  
だと、今でも毎日教えられる。母  
子どもながらに体験した感謝と  
怒意と喜びだけを残して、苦難の

糸は丸め、どうに託稿の底へ封切  
しましたけれど、戦後70年の節目に  
「本心に勇敵なのは、戦いや殺しあ  
いはなく、かけがえのない未来を  
守ることだ」と語る。原爆被爆者で  
現在はアメリカに在住するモリタカ  
さんの言葉に心を打たれ、しりと重く  
受け止めます。

いつの世でも大人たちの使命はかけ  
がえのない未来を守ることなので

ところが皆様のご家庭ではお盆  
の日々をどうにお過ごしになりました  
か？

新盆の我家は「タマシヤキバネ」  
をお供えました。

これまでも何度か「タマシヤキバネ」  
いたのですが、今回「ヤ」とは「きり  
と分かつたこと」があります。

芯になる「タマシヤ」の中に「真」の  
心がありと味わい深くと仕上げるコソは  
「待つ」といふことでした。

待つことと生焼ける食べづれない  
形をた整わない。

熟成するまで根気よく待つのです。  
待つ心は松の葉の心に通じると確  
信することができました。

9月5日は「茶刃回まつり」み大連  
動会」です。

松の葉の心「ま行」  
まつり

み見守る

み無理しない

み目元やましく

も盛り上げる

NO.1の子どもたちと一緒に楽しんで  
いただきたいと思います。

それが今できる、かけがえのない  
未来を守ることをなすはなないで  
しょうか。

さあ、

今日から準備体操を!!  
よろしくお願ひします。

園長 福田孝子

H27. 9月